



EMリーフレット

Leaflet-No.2

「作って使う」シリーズ

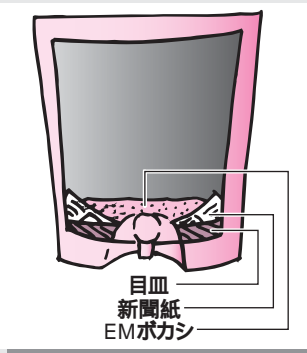


EM生ゴミ処理編

～ 生ゴミを家庭で処理、有機肥料として利用しましょう。～

【準備するもの】

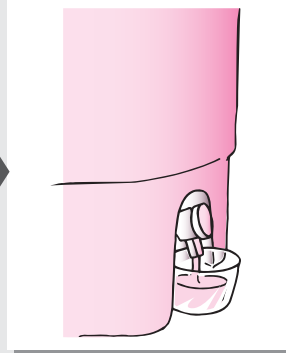
- ・EMボカシ...米ヌカとモミガラをEMで発酵させたもの。
(全国の福祉施設などで製造・販売されています。EMリーフレットNo.3を参照して下さい)
- ・生ゴミ、残飯...新鮮なものが望ましい。良く水をきり、大きいものは細かくするなどの処置をして下さい。
- ・生ゴミ処理バケツ...密封できるものであればなんでも可。専用のバケツもあります。



① ゴミ処理バケツに備えつけの目皿の上に、新聞紙を敷き、EMボカシを最初に敷きます。

新聞紙を敷くことで目詰まりを防ぎ、液肥を濾すことができます。

目皿
新聞紙
EMボカシ



④ 発酵液を取り出す。

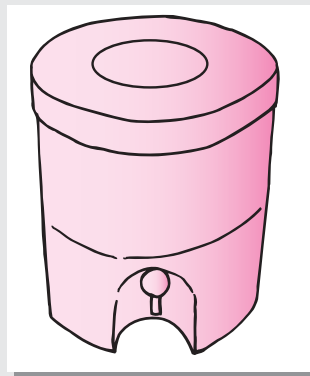
底に発酵液がたまりまますので、そのつど取りだし下記を参考にして使用して下さい。～の工程を繰り返し行い、容器一杯もしくは8分目あたりまで続けて下さい。



② 処理バケツに生ゴミとEMボカシを入れます。

調理時にでる生ゴミは速やかにEMボカシ処理すること。生ゴミは水分を十分に切っておきましょう。また、水に濡れないような工夫も

大切です。大きい生ゴミはEMボカシを混ぜやすいように細かくすると良いでしょう。EMボカシをたっぷり使って生ゴミとあえるように充分混ぜて下さい。



⑤ 直射日光を避け、密封して1～2週間程発酵させる。

不快感のない臭気(漬物の様な臭気など)であれば成功です。臭気が気になる場合はEM・1か米のとぎ汁EM発酵液をかけながら土に埋めます。
(米のとぎ汁EM発酵液はEMリーフレットNo.1を参照下さい)

〈発酵液の使い方〉

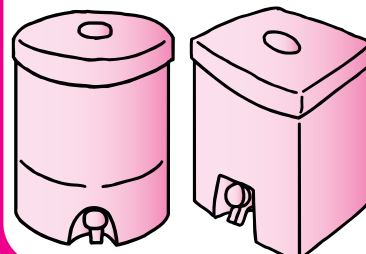
- ・トイレや排水溝の浄化と臭気対策に(適量)
- ・植物の液肥に(500～1000倍程度に薄めて灌水がてらに)



③ EMボカシと生ゴミを混ぜた後、上から押して空気を抜きます。

古いしゃもじなどの道具を使うと便利です。嫌気状態で発酵させますので、上からギュッと押して内部の空気を抜いたあと、生ゴミの表面をビニールで覆い、空気を遮断してからフタを閉め密封してください。

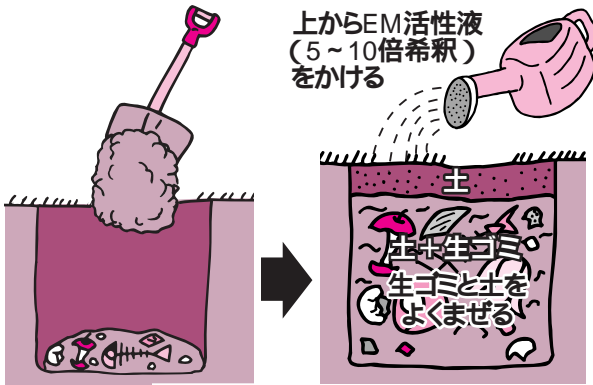
生ゴミ処理用バケツ



生ゴミ処理用バケツは各メーカーから数種類の形のもが市販されています。また、自治体などで助成している所も多数あります。お住いの自治体にお問い合わせ下さい。

誰にでもできるEM生ゴミ処理で、リ

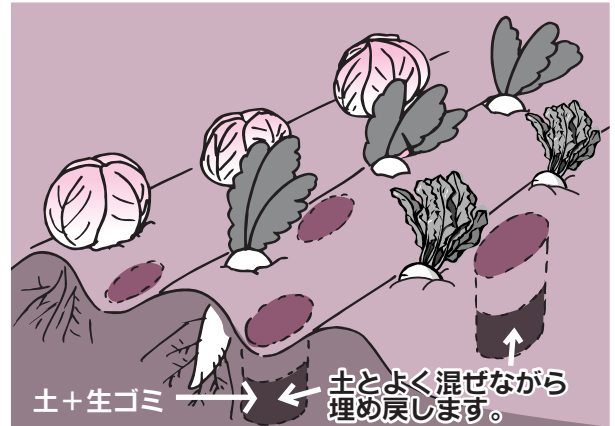
私たちが普段なにげなく出しているごみの量は、日本全体で年間約5,000万トン。そのうちの約2分の1にあたる2,500万トンが生ゴミだと言われています。様々な問題をかかえる生ゴミですが、有機物を発酵させる働きがあるEM(有用微生物群)を活用すると、短期間で生ゴミを良質の発酵肥料に変えることができ、家庭菜園や花づくりに活用して楽しむことができます。EMボカシと密閉容器さえあれば、どのご家庭でも手軽におこなえます。あなた一人の行動から社会が変わって行きます。誰にでもできるEM生ゴミ処理をご自宅で始めましょう。



●畑で使用する場合

穴を掘って、EM処理した生ゴミを土とよく混ぜてから、上から土をかぶせ、5～10倍に薄めたEM活性液(または米のとぎ汁EM発酵液)をかけます。

約2週間おくと分解し、堆肥として使えます。もっと長く置くと形が完全になくなり、プランターなどの植込み用土としてそのまま使えます。



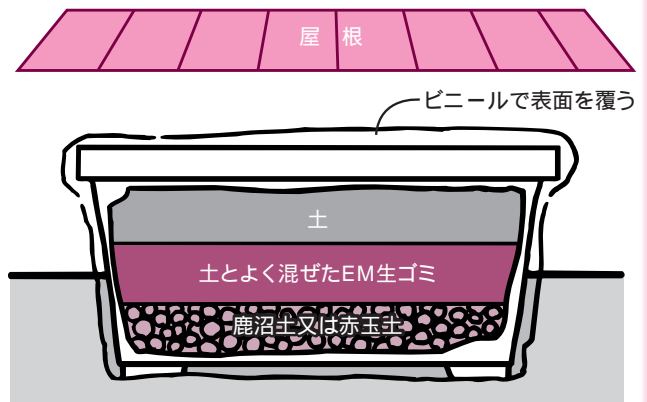
●追肥として使う場合

植物の根にEM処理した生ゴミが直接触れないように、株間に埋めるか、畝間に埋めます。

●プランターで利用する場合

プランターにEM処理した生ゴミを使用する場合は、まず下層に鹿沼土(もしくは赤玉土)を入れ、中層に土とよく混ぜ合わせたEM生ゴミ(プランター容量の3分の1～4分の1)を、さらに上層に土をかぶせ、適度な水分を保持するためビニールで表面を覆い1ヶ月以上経過してから、種や苗などを植えてください。

EM処理した生ゴミは、夏場で10日、冬場で30日ほどで土にもどります。また、EM生ゴミ堆肥を何回か繰り返し土に入れていくと、コロコロした黒く良質な土になり、ミミズなどが発生することがありますが、これはよい土に生まれ変わった証拠です。

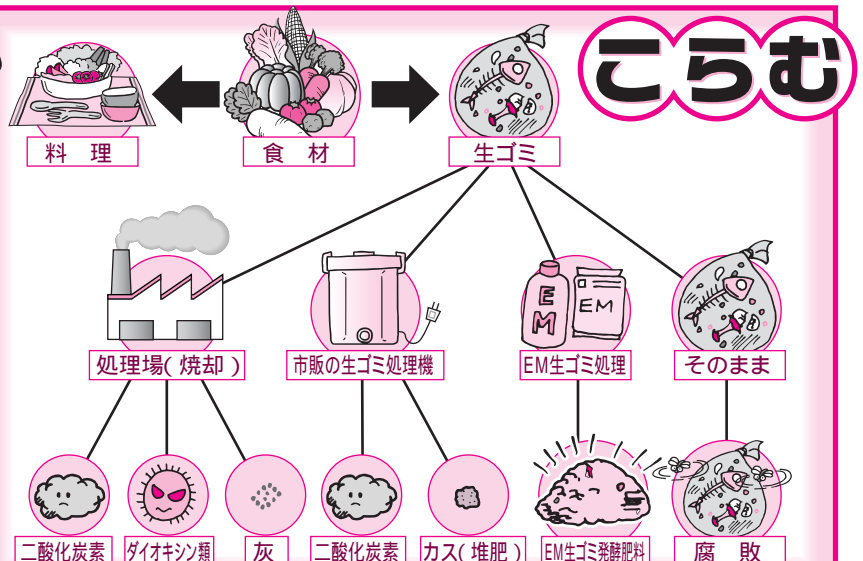


市販の生ゴミ処理機との違い

現在、生ゴミ処理機は様々な種類が市販されています。これらとEM生ゴミ処理の違いはどこにあるのでしょうか。

通常の微生物式の生ゴミ処理機は熱を加えて空気(酸素)と触れさせ、『分解』します。処理後はほとんどカスの状態になり、容積は少なくなります。EMの場合、密閉容器を使いますが、これは空気を遮断して『発酵』させるためです。処理後も形や容積はほとんど変わりません。しかし、できたEM生ゴミ発酵肥料は養分に優れ、植物の肥料として活用できます。

ゴミを目の前から無くせばいいと思えば、燃やしてしまうのが一番早いのですが、ダイオキシンなどの様々な問題が発生します。資源をリサイクルするという観点からすると、EM処理のメリットが見えてきます。



サイクルを実感しましょう。

その他のEM生ゴミ処理

生ゴミを直接土に入れる方法

そのつど土に穴を掘って、生ゴミをEMポカシと混ぜながら土で埋め戻します。

植物を植えてある場合、根本から離して埋めましょう。

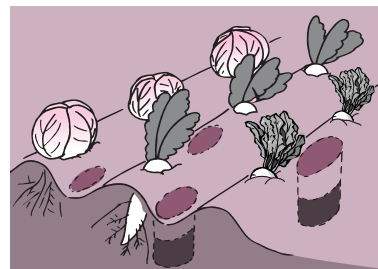


米のとぎ汁EM発酵液 またはEM活性液を使った方法

EMが生ゴミのすみずみまで浸透するため、発酵しやすくなります。夏場など腐敗しやすい場合、臭いが気になる方は試してみると良いでしょう。



① 小型のフタ付容器(バケツやタッパーなど)に米のとぎ汁EM発酵液(EM・1、EM活性液でも可:EMリーフレットNo.1参照)を入れ、その中に新鮮な生ゴミを浸します。フタはしっかりと閉めましょう。



③ 密閉容器にためてから土に戻すか、その都度、土と混ぜて腐葉土にします。畑で使う場合、EMポカシを混ぜると水分調節にもなり、更に栄養バランスの良い肥料となります。EMポカシは少量でもかまいませんが多い程効果が上がります。EMポカシの量は1割以上を目安にします。

EM生ゴミ処理の基本は資源の循環(リサイクル)です。埋める場所がない場合は、知り合いの農家に利用頂くなど、土に返す方法を探してみましょう。また、EM処理した生ゴミは、可燃ゴミとして捨ててもダイオキシンの発生につながりにくくなります。

② 容器がいっぱいになったら浸していた生ゴミをザルに上げ、水分をよく切ります。残った米のとぎ汁EM発酵液は液肥として希釈し利用するか、排水溝に流して下さい。



EMポカシ入手についての問い合わせ先 EMポカシネットワーク支部一覧

本部事務局 東京都 港区
TEL.03-5427-2349 FAX.03-5427-5890
北海道支部 河西部 芽室町
TEL.0155-62-5449 FAX.0155-62-7449
青森支部 青森県 十和田市
TEL.0176-23-1592 FAX.0176-23-1592
三陸支部 宮城県 気仙沼市
TEL.0226-24-2147 FAX.0226-24-2142
関東支部 千葉県 我孫子市
TEL.04-7184-2789 FAX.04-7184-4973
山梨支部 山梨県 笛吹市
TEL.0553-47-1008 FAX.0553-47-1008
静岡支部 静岡県 富士宮市
TEL.0544-26-3262 FAX.0544-26-0522
北陸支部 福井県 福井市
TEL.0776-27-6955 FAX.0776-27-3658
新潟支部 新潟県 十日町市
TEL.0257-57-9749 FAX.0257-52-4130
長野支部 長野県 駒ヶ根市
TEL.0265-83-3414 FAX.0265-83-3414

中部支部 岐阜県 可児市
TEL.0574-65-6436 FAX.0574-65-6436
関西支部 大阪府 大阪市
TEL.06-6222-3903 FAX.06-6205-3903
大阪支部 大阪府 東大阪市
TEL.06-6782-6518 FAX.06-6788-0486
滋賀支部 滋賀県 長浜市
TEL.0749-63-0180 FAX.0749-63-0195
京都支部 京都府 京都市
TEL.075-492-3427 FAX.075-492-3427
奈良支部 奈良県 生駒郡
TEL.0743-57-3133 FAX.0743-57-3133
和歌山支部 和歌山県 和歌山市
TEL.0734-23-5333 FAX.0734-23-5334
兵庫支部 兵庫県 芦屋市
TEL.0797-22-5999 FAX.0797-22-5999
中国支部 広島県 深安郡
TEL.0849-63-4510 FAX.0849-63-4953
島根支部 島根県 松江市
TEL.0852-27-5517 FAX.0852-27-5517

徳島支部 徳島県 徳島市
TEL.088-622-8666 FAX.088-623-4304
香川支部 香川県 高松市
TEL.087-843-3689 FAX.087-870-0235
高知支部 高知県 高知市
TEL.088-884-8535 FAX.088-884-9779
愛媛支部 愛媛県 松山市
TEL.089-932-7100 FAX.089-932-7117
福岡支部 福岡県 福岡市
TEL.092-852-8511 FAX.092-852-8512
佐賀支部 福岡県 八女郡
TEL.0943-32-0469 FAX.0943-32-2425
長崎支部 長崎県 諫早市
TEL.0957-24-5500 FAX.0957-24-5511
熊本支部 熊本県 熊本市
TEL.096-329-1777 FAX.096-329-1784
沖縄支部 沖縄県 うるま市
TEL.098-972-6060 FAX.098-972-6068



「EMポカシネットワーク」は、EMポカシを製造する授産施設やそのポカシを普及する地域ボランティアグループなどで構成された全国ネットワークです。EM関連企業や団体が、資材の提供、技術指導などを行い、施設の自立を支援しています。

EMとは?

What is EM?

EMとはEffective Microorganismsの略で、有用微生物群のこと。
世の中に数ある微生物の中でも有用な微生物を集めたもので、
さまざまな汚れをきれいにして腐敗菌を抑える働きをもっています。



【市販されているEM・1】

現在、日本では2つのメーカーがEMを製造しています。

(株)EM研究所 <http://www.emlabo.co.jp/>

静岡県静岡市葵区吉津666番地 TEL. 054-277-0221

(有)サン興産業 <http://www.saion-em.co.jp/>

沖縄県那覇市仲井真272-1 TEL. 098-832-3555

「作って、使う」シリーズ



EMリーフレット
No.1
米のとぎ汁
EM発酵液 編



EMリーフレット
No.2
EM生ゴミ処理 編



EMリーフレット
No.3
EMボカシ 編



EMリーフレット
No.4
EM活性液 編



EMリーフレット
No.5
EMでできる
家庭菜園 編



EM研究機構

〒904-2203 沖縄県うるま市川崎468番地
Tel.098-972-6060 Fax.098-972-6068
URL <http://www.emro.co.jp/>

EMとは、「有用(Effective)」と「微生物群(Microorganisms)」
を組み合わせた「有用微生物群」の略で、EMの開発者である琉
球大学農学部 比嘉照夫教授により名付けられた造語です。

EMに関する商標は、EM普及の中核を担うEM研究機構が管
理しています。

2005.10.10